



第188号

編集・発行
長浜市文化財保護センター
〒526-0845 長浜市小堀町32
tel:0749-64-0395 fax:0749-62-6357

1：指定文化財紹介



木造 大日如来坐像 1 軀

木造 漆箔 彫眼 像高 147.3cm

平安時代後期 重要文化財

光信寺（長浜市太田町）

旧浅井町地区の重要文化財で、半丈六像（座った姿で高約1.2m）としては3例目になる太田町・光信寺の大日如来坐像を紹介します。

光信寺は長浜市太田町の浄土真宗寺院。『東浅井郡志』によれば、もとは寂靜山大福院という天台寺院で、永正2年（1505）に浄土真宗に改宗し、その際に本尊であったこの大日如来像を別堂に遷して、大日堂と称したと伝わっています。

地元では隣接する中山神社の本地仏として祀られていたとされ、現在は毘沙門天立像（平安時代）・不動明王立像を脇侍として収蔵庫に安置されています。

大日如来は密教の最高尊格であり、如来でありながら髻を結って宝冠を戴き、装飾品を身にまとう姿として表されます。密教の世界観を表す両界曼荼羅の中尊として描かれ、胎藏界曼荼羅では法界定印、金剛界曼荼羅では智拳印を結びます。

本像は、左手人差し指を右手で握った智拳印を結ぶ金剛界大日如来で、垂髻を結って天冠台を戴き、条帛、臂釧、腕釧、裳を着け、右脚を外にして結跏趺坐します。現状では表面に後世の漆箔が残っています。滋賀県下の大日如来像としては、近隣では法界定印を結んだ高月町・向源寺の大日如来坐像（像高148.5cm、重要文化財）が大きさ、制作年代ともに近い作例です。

本像は、定朝様を踏襲する様式ながら、強く見開いた目や、量感を残して分節のはっきりした体軀把握が特徴です。現存唯一の定朝作である平等院鳳凰堂阿弥



陀如来坐像（1053年）以降、中央作では京都・大蓮寺薬師如来立像（1071年）あるいは即成院二十五菩薩像（1094年）、地方にあっては福岡・観世音寺十一面観音立像（1069年）など、11世紀後半には目の見開きの強い像が見受けられますが、12世紀に入るとより穏やかさを求めてか、伏し目がちな眼差しへと移行していきます。その流れに照らせば、向源寺大日像は12世紀の作、本像の制作はそれに先行して11世紀後半に差しかかるのではないかと考えられます。

構造は、基本的に頭体幹部をケヤキ材から彫出した一木造ですが、両肩から先の両腕すべてと、膝前材はヒノキ材でつくられています。ケヤキ材製の仏像は珀清寺薬師如来坐像（長浜市瓜生町）など、湖北の平安像にはいくつか見受けられ、この地での制作を想像させます。幹部材は干割れ防止と軽量化のため、頭部と体部に背面から内剝を施し、後頭部・背中・腰下の3か所で蓋板をあてています。その蓋板もすべてヒノキ材製で、耳朶（耳たぶ）もヒノキ材です。通常考えられるのは、ケヤキ材製の頭体幹部のみがオリジナルで、あとのヒノキ材製部分は後補ということでしょう。しかしながら、太くたくましい上膊部と彫出された臂釧の連珠文、平安時代を彷彿とさせる膝前材の衣文線など、後補としておくには惜しい造形です。

像内背面臀部蓋板内側に、「奉修理木造大日如来坐像 一躯／昭和四年七月依古社寺保存法／修理竣功畢 大日堂」と記された銅板修理銘札が打ち付けられています。これにより、当時は大日堂と呼ばれ、古社寺保存法により昭和4年（1929）に修理を受けたことがわかります。しかし一方で、昭和2年に刊行された『東浅井郡志』に掲載された写真には、すでに現状の両腕と膝が写っています。

いかなる理由でこのような大がかりな修理を受けるようなダメージを負ったのか。もしかすると古い時代の後補なのではないか。さまざまな想像がかきたてられます。



大日如来像底部分写真

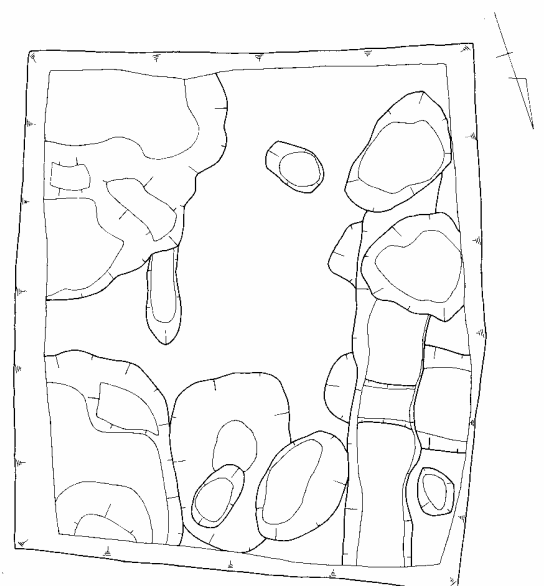
2：堀部西遺跡第46次調査（堀部町）

堀部西遺跡は、長浜市東部に位置する堀部町に所在し、縄文時代から近世に至るまでの複合遺跡として知られています。

今回の発掘調査の場所は、堀部町北部にある西塚古墳と北山塚古墳の間、中世の城館跡である堀部城跡の可能性も指摘されている場所にあたり、個人住宅新築工事に伴う調査として、対象面積112.75㎡の内、破壊の免れない約16㎡について実施しました。

調査地の基本層序は、第1層が造成土で、現地表面以下0.16mまで、第2層は遺物を含む暗褐色中礫混極細砂で、現地表面以下0.16mから0.55mまででした。

発掘調査で見つかった遺構は、土坑、溝、ピットなどでしたが、調査面積が狭かったこともあり、遺構の全容を明らかにすることはできませんでした。



調査区平面図

遺構の中からは須恵器すえきや土師器はじき、陶器とうきなどが出土し、遺構の年代は中世ちゆうせい以降のものであると考えられます。



調査区全景写真（北から）

3：大塚遺跡第34次調査（西上坂町） おおつか

工場建設工事に伴う試掘調査で、対象面積 611.63 m²の内 13.5 m²について調査を行いました。調査の結果、遺構・遺物は確認できませんでした。



トレンチ断面

4：野瀬遺跡第38次調査（口分田町） のせ

野瀬遺跡は、縄文時代～中世の集落跡で、過去の調査では掘立柱建ほったてばしらたてもの物跡や溝跡、ピット群が見つかっており、弥生土器やよいどき、土師器はじきなどが出土しています。

今回の調査は宅地造成に伴う試掘調査で、対象面積約 13,775 m²のうち約 140 m²を調査し、34 箇所にトレンチを設定して行いました。調査の結果、9 箇所のトレンチより溝跡、ピットを検出し、弥生土器、土師皿が出土しました。



トレンチ断面

5：大戌亥遺跡第68次調査（勝町） おおいぬい

宅地造成工事に伴う試掘調査で、対象面積 217 m²の内 7 m²を調査しました。調査の結果、遺構・遺物は確認できませんでした。



トレンチ断面

かきまち

6：柿町遺跡第16次調査（大辰己町）

分譲住宅造成工事に伴う試掘調査で、調査対象面積約 8,600 m²に対し 57 箇所の特レンチを設定し、約 400 m²について調査を実施しました。

基本的な堆積状況は2層からなり、第1層が耕作土、第2層が暗オリーブ灰色シルトで、オリーブ灰色細砂或いはオリーブ灰色粗砂が地山であると考えられ、現況面から地山までの深さは0.2～1.1mでした。今回の調査からは、遺構や遺物を確認することはできませんでした。



トレンチ断面

7：長浜市文化財講演会のご案内

【題目】 湖北の民家の魅力 - 実用性と精神性 -

【とき】 7月12日（土）午後1時30分から午後3時まで

【ところ】 長浜市民交流センター

（長浜市地福寺町 4-36）

【講師】 よしみしずこ 吉見静子 氏（岐阜女子大学名誉教授）

【参加費】 300 円

民家、それは身近に感じることができる歴史の証人。語ることはなくても伝えてくれる部材のハーモニー。

今回の講演会は、建造物の中でも文化財的視点から見た民家入門で、初めての方にも分かりやすい講演です。

近世初頭から近代初頭までの民家の大きな流れを捉え、平面形式や構造から見た湖北の住居の特色、「余呉型」に代表される建物の構造とその分布、部屋の呼び名や用途などについてお話いただきます。

この講演を通して民家とは何かについて理解を深め、受け継がれていく文化財の重みと大切さを感じ取ってください。

第17回長浜市文化財講演会

湖北の民家の魅力

— 実用性と精神性 —

よしみしずこ
講師 吉見静子 氏
岐阜女子大学名誉教授

【講師プロフィール】
京都工芸繊維大学工学部卒業。専門は建築史で遺構・建築史の古民家の調査研究。著書は『滋賀県中近世古民家調査報告書』や『各務野村史の調査執筆（民家部門）』ほか多数。
現在、長浜市文化財保護審議会委員として長浜市の文化財についてご講演いただいています。

平成20年
7月12日 土
13:30～15:00(開場は13:00～)
会場：長浜市民交流センター
「ふれあいホール」

参加費300円
※この講演会は長浜市「歴史コース」の開催講座です。
※参加料なし（入場料あり）です。

お問い合わせ 長浜市教育委員会 文化財保護センター
TEL.0740-64-0395

編集後記

日ごとに日差しが強くなり、夏が近づいているのを実感する昨今です。発掘調査にはつらい季節がまたやってきます。

記事にも書かれていますが、7月12日に市民交流センターにて文化財講演会が行われます。皆様お誘い合わせのうえ、ぜひお越しください。